

令和4年度前期 上田市立北小学校 学校自己評価シート 評定=A：できている B：だいたいできている C：あまりできていない D：全くできていない

学校教育目標		総合評価		
「花とみどりと笑顔の学校」 ～あふれるあいさつ かよいう心～ 10年後、20年後に大輪の花を咲かせるための今の創造 「今の努力が未来に続く、今を精一杯」		学校長の『笑顔』を広げるためにあいさつを大切にしよう」との年度当初の投げかけにより、あいさつが響き渡る学校となっている。また、北小応援団の方と植えたフラワーロード花壇の花々が見ごろであり、地域の方にも喜んでいただいている。さらには「10年後、20年後に大輪を咲かせるために、今、どんな力をつけていったらよいのか」の具体的な姿について、再度共通理解し児童を育てていく必要がある。		
今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策
よくふれあい…「友だちをいっぱいつくろう」 ・教師は、子どもが他者とつながることや子ども同士がかかわり合うことをサポートし、人に対する愛着心を育むことができたか。		あいさつが広がり、子どもたち同士がかかわる活動も多い。多様な他者とのかかわりは、さらに増やしていきたい	A	友達とのかかわりを意識した学習や地域の方、もの、こととかかわる学習を積極的に考えていく。
よく学び…「じっくり考えよう」 ・教師は、子どもの『問い』を真ん中にすえた授業を行い、子どものやる気を引き出し、子どもたちの主体的に追究していく力を育てることができたか。		アンケート結果より、授業が楽しいと感じていない児童が2割いることを重く受け止めていきたい。	B	「児童が自ら考えたくなる授業」に向けて、研修会や研究会をもちさらに授業改善を行っていく。
よく遊ぶ…「たくさん遊ぼう」 ・教師は、遊びの時間を大切にしたい働きかけをし、遊びを通して子どもたちの意欲や主体的に活動する力を育むことができたか。		子どもたちは、遊びの時間を楽しみにし、よく遊んでいる。さらに、遊びを通して一人一人の意欲を引き出していく。	B	子どもたちの遊びの実態より、その子に応じた遊びを楽しめるよう、支援していく。(子ども同士をつなぐ、遊びの中でつぶやきに耳を傾ける等)

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
学校教育	よくふれ合い	あいつの響く学校づくり	「5つのあいさつ」(1日に何度も、相手を見て、会釈して、笑顔で、自分から)をおこなっている。	あいさつが響く学校生活となっている。校外学習の場でも、自然な姿であいさつができ、お褒めの言葉をいただくことがあった。	A	さらに後期は「自分から」「笑顔で」「会釈して」を加えて行っていく。教師も共に行っていく。
		かかわり合う場の確保	北小応援団と連携した活動・放課後学習を積極的にを行い、地域のもてる力を有効活用している。	外部講師によるクラブ活動や地域の方とのフラワーロードの花植えコミュニティルームでの交流をおこなった。	B+	コミュニティルームを活用した児童と地域の方とのふれあいの場づくりをさらに工夫していく。
		学年の枠を超えて友だちと交流する場の保証	学年内やペア学級で友だちとふれあう活動・子どもたちのアイデアを生かした児童会活動を通して、互いに高め合う活動を行っている。	児童会では、「遊びの広場」を行い全校児童がペア学級でと遊びを楽しんだ。	B	2回目「遊びの広場」の内容も工夫していく。日々の中でもペア学級と交流をおこなっていく。
		子どもたちの『問い』を真ん中にすえた授業の創造	以下5点を大切にしたい授業を行うようにしている。 ・子どもの「願い」や「疑問」をもとにした学習問題を設定する ・追究の見通しから課題を明確にできる場を設定する ・追究時間の保障と個々のつまずきに応じた支援をする ・追究結果を交流する場の設定と学習問題と照らしたまとめをする ・自他の高まりを認め合う全体評価の場を設定する。	重点研究の3部会を中心に授業改善に向けた実践研究を行ってきた。友達同士で、問題を追究する場面が多く設けられるようになった。	B	教育事務所の指導主事を招いて、研究授業と研究会を行い、さらに「問い」を真ん中に据えた授業の具体について学んでいく。
		生活科・総合的な学習の時間の充実	子どもの「願い」をもとに活動を構想し、子どもたちがわくわくする探求的な学びを支援している。	各学級ごと子どもたちの「願い」をもとに、活動を展開した。(地域たんけん、ものづくり、交流活	B+	子どもたちの「願い」を語り合う場を設定し、「願い」をもとにさらに創造的な活動へと発展させて

学校経営	よく遊び			動、栽培活動等)		いく。職員間での情報交換の場を設定していく。
		「ハッピータイム」(外遊びの日の位置づけの継続充実と遊びの時間の確保	子どもと一緒に外遊びを楽しんだり、子どもが外遊びに進んで取り組めるよう働きかけたりしている。	教師も、児童と一緒に遊ぶ時間になっているが、ハッピータイムでの遊びに困る児童の姿が見られた。	B	子どもたちの遊びの実態を把握し、学校全体の教職員で児童の遊びを見守っていくようにする。
	情報の発信	教育方針・取組やその成果・連絡など、必要な情報を定期的に発信している。	週1度のHPの更新を行うことができた。学校・学年(学級)だよりを定期的に発行した。	B	HPへの情報発信を継続すると同時に、閲覧を呼びかけていく。	
	P T A ・ ボ ラ ン テ ィ ア と の 連 携	P T A や ボ ラ ン テ ィ ア と の 連 携 を 十 分 行 っ て い る 。	2年ぶりに「親子チャレンジ」を行う等、連携して行事の企画、運営を行った。	B+	「北小まつり」「PTAC作業」等後期のPTAC行事に向けて連携と協力をしていく。	
	一人一人に寄り添った支援	全職員で児童を支え、一人一人に寄り添った支援をおこなっている。	一人一人の児童を支えるために、個別支援、支援会議、保護者への連絡等を担任一人でなく、複数の職員でおこなっている	B+	さらに、教科担任制・コース別学習の導入により、複数の教職員で子どもたちを見ていくことを試みる。保護者への連絡は、スピードをもって行っていくようにする。	